

環境まちづくり委員会 行政視察報告書

1. 実施日 2025年10月15日（水）～ 10月16日（木）

2. 観察地及び観察テーマ

(1) 福井県 勝山市

「かつやま恐竜の森の経済効果とまちづくりについて」

(2) 福井県立恐竜博物館 （福井県 勝山市）

「福井県立恐竜博物館の経済効果と「恐竜王国ふくい」のPR方法について」

(3) めがねミュージアム （福井県 鯖江市）

「めがね産業と市との連携について」

3. 観察者

環境まちづくり委員会 委員長：山崎陽一

副委員長：池澤 敦

委 員：濱中俊男・馳平耕三・中嶋 勝・秋山義徳

4. 観察報告

(1) 福井県勝山市 「かつやま恐竜の森の経済効果とまちづくりについて」

(2) 福井県立恐竜博物館 「福井県立恐竜博物館の経済効果と「恐竜王国ふくい」のPR方法について」

観察日時	2025年10月15日(水) 午後1時～午後2時30分 (福井県勝山市) 午後3時～午後5時 (福井県立恐竜博物館)
観察先	福井県勝山市 (福井県勝山市元町一丁目1番1号) 議会事務局 次長 椿山浩章 氏 勝山市観光まちづくり株式会社 広報 南部真佐美 氏 福井県立恐竜博物館 (福井県勝山市村岡町寺尾51-11 かつやま恐竜の森) 副館長 寺田和雄 氏
【勝山市の概要】	
<ul style="list-style-type: none">人口：20,875人、面積：254 km²概要説明：九頭竜川の河岸段丘に位置し、農林業や繊維産業が盛んな地域。地勢：山間部の豪雪地帯だが、自然豊かで山林や森に囲まれた田園都市。沿革：江戸期は越前勝山藩。百姓一揆も起こる。8町村が合併、勝山市発足。	

- ・主要産業：恐竜博物館・越前大仏への観光。農業。川魚業。繊維産業。
- ・一般会計予算規模：161 億円。市議会議員 14 人。
- ・市の特徴：恐竜化石が発掘され、県立恐竜博物館には年間 120 万人が来館。
- ・特色ある施策：恐竜博物館や越前大仏、平泉寺白山神社など歴史的遺産で観光客誘致。

【視察目的】

2024 年春の北陸新幹線延伸で、県は福井駅周辺に 23 体の恐竜モニュメントを配置。勝山市の県立恐竜博物館も展示をリニューアル。恐竜ロボットの多くを羽村市にある株式会社ココロが制作・納入しており、「恐竜を発掘・展示するまち×恐竜をつくるまち」として勝山、羽村のブランドイメージを高める可能性を探りたい。

【視察概要（内容）】

勝山市のまちおこし・・・恐竜化石と歴史的遺産で雇用創出。定住人口増加に

「勝山市」といえば恐竜。恐竜博物館には羽村市内の株式会社ココロが制作した復元恐竜が納入されており、駅前で恐竜の親子が出迎える。

1988 年に 1 億 2000 万年前の肉食恐竜化石が発掘され、恐竜化石の宝庫として注目されている。恐竜博物館が開館して 25 年。新幹線延伸で関東方面からも観光客は増加したが宿泊者は少ないのが課題。また市内人口も 2024 年度は 391 人減り、一人当たり年間消費額 135 万円として市内経済は 5 億 2800 万円の減少という。

活性化を掲げてまちおこしを担うのは勝山市観光まちづくり株式会社。説明をしてくれた南部真佐美さんは市役所職員を経て入社し、広報を担当。観光の産業化として、①「道の駅」など収益事業を運営。②観光事業の恐竜に加え、越前大仏など歴史的遺産やスキー場などを総合的に PR 発信、星野リゾートのホテルの進出も決まり外国人観光客にも期待。③飲食や土産店で地元農産物やニジマス販売、伝統的繊維業振興など長期戦略で地域全体を盛り上げて雇用創出。「若者の定住や移住促進でつなげたい」という。

質疑応答の内容

Q. なぜ市役所観光課ではなく、勝山市観光まちづくり「株式会社」が行うのですか。

A. 道の駅や恐竜博物館の記念品販売等で売上 5 億円。稼ぎながら街を盛り上げます。



人口減少の経済的影響

恐竜ポーズで記念写真

「広報かつやま」にも恐竜が

【所感・羽村市にどう活かせるか】

市内企業である株式会社ココロ制作の恐竜を羽村駅前や市役所、ゆとりぎなどの公共施設に展示することで、市民や来訪者に「驚きと感動」「笑顔やときめき」を届けられるのではないか。

【観察概要（内容）】

福井県立恐竜博物館・・・羽村市内の株式会社ココロが恐竜を復元制作

北陸新幹線延伸で整備された福井駅前には 23 体の恐竜たちが並ぶ。勝山永平寺線に乗り換え、勝山市に。福井県立恐竜博物館は世界三大恐竜博物館の一つで 2000 年に開館。新幹線延伸に合わせてリニューアルした。地上 3 階、地下 1 階の館内は「恐竜の世界」「地球の科学」「生命の歴史」の 3 つのゾーンで構成されている。恐竜の世界には、ティラノサウルスなど動く復元ロボットなどが 11 体。恐竜の全身骨格 50 体を含めて 1800 点の資料が展示されている。歴史の展示では、2 億 3000 万年から、6 億 6000 年前の恐竜世界、人類の出現までを展示。そのほかにも化石クリーニングなどの研究体験もできる実感型施設となっている。全部で 13 体の復元恐竜は調査・企画し、羽村市内の株式会社ココロに特注。「本物志向で優れておりメンテナンスなども依頼しています」と副館長の寺田・福井大学客員教授。

来館者は年間約 120 万人。観覧料は一般 1000 円、未就学児は無料。幼児が恐竜に駆け寄り「ここに住みたい！」と叫んだり、首長恐竜を見上げて驚いたり、とても楽しそうだったと参観したお母さん。年齢に関係なく「心に響く、ときめき」があるのだろう。家族連れが多くマイカーで 2 ~ 3 時間の関西、中京方面からが 7 割、関東からは 2 割弱。

新幹線を使えば東京から 4 時間ほどになり大宮市などでも展示 PR をしている。2026 年には福井県立大学・恐竜学部が開設。ますますの集客が期待される。ぜひ羽村市も「恐竜での活性化」を目指してみたいと思う。

質疑応答の内容

Q. 世界 3 大恐竜博物館とは勝山の他、どこですか。

A. カナダと中国にあります。株式会社ココロの恐竜は世界 25 カ国に導入されているそうです。

Q. 展示の他にどのような活動をするのですか。

A. 研究員は 16 名で古生物学、地質学、地球科学などの研究をしています。化石発掘調査は 1982 年に始まり、約 17 万点収集。5 種類の新種化石は天然記念物に指定されています。



福井駅前・全長 10m のスコミヌス

恐竜博物館・動くティラノサウルス

骨格標本

【所感・羽村市にどう活かせるか】

羽村市のようにユニークな企業（株式会社ココロ）を持つ自治体は、全国的に珍しい。それを活かして、教育・観光・まちづくりが連動する取組は、市民の誇りにもなる。産業祭などのイベント、子ども向けの「恐竜×ものづくり」教育プログラム、勝山市との連携で、「未来に向けた恐竜のまちづくり」が考えられる。「恐竜を見ると笑顔になる」の言葉通り、恐竜は“楽しさ”“驚き”“学び”を同時に運んでくる力を持っている。

勝山市との連携提案は、「恐竜」を軸にした”異なる強みの融合”による相互発展モデルとしての意義がある。市内企業の株式会社ココロが制作した恐竜ロボットを駅前や市役所、ゆとろぎなどの公共施設に展示することで、市民や来訪者に「驚きと感動」「笑顔やときめき」を届けられるのではないか。瑞穂町にある貸し出し用恐竜倉庫には約 30 体が保管されている。「羽村市内に空き建物があれば移転、公開展示したい」 そうで、公共施設の整理統合に合わせて検討できないだろうか。

(3) めがねミュージアム 「めがね産業と市との連携について」

視察日時	2025 年 10 月 16 日 (木) 午前 10 時～午前 12 時
視察先	一般社団法人 福井県眼鏡協会(めがねミュージアム) (福井県鯖江市新横江 2-3-4 めがね会館) 島村 氏

【鯖江市の概要】

- ・人 口 : 67,055 人、
- ・面 積 : 84.59 km²
- ・財 政 : 歳入 300 億円 経常収支比率 85.3% 議員 20 人 歳費 40.3 万円／月
- ・概要説明 : 日本の眼鏡フレーム生産の約 96%、世界でも約 20% のシェアを誇つ。
- ・地 勢 : 福井平野と武生盆地の間の鯖江盆地が大勢を占め、央部南北に細長く伸びる。
- ・沿 革 : 鎌倉時代に誠照寺の門前町として開け、江戸時代は鯖江藩 5 万石。
- ・主要産業 : 眼鏡枠、漆器、繊維の三つが地場産業として発達。SDGs を目指している。
- ・市の特徴: 福井市に隣接し、宅地造成による住宅などで人口は増加した。
- ・特色ある施策 : 女子高校生視点のまちづくりプロジェクト「鯖江市役所 JK 課」設置。

【視察目的】

国内のめがねフレーム生産の 96% 以上を占め世界市場でも約 20% のシェア。チタンフレームなど高品質で知られ、輸出による外貨流入で地域経済に多大な寄与をしている。

メガネ産業発展の理由、高品質の追及、地理的条件、市内の協力体制等を学ぶ。

【視察概要（内容）】

めがねフレーム国内生産 96% … 市内人口の 1 割が従事、半数は女性

鯖江市はめがねフレームの国内制作 96% というめがねの聖地。駅前道路にはめがねマークの旗が連なる。その情報発信・PR するのが「めがねミュージアム」。担当の島村氏によると来館者は年間 12 万人。メガネの歴史から、フレーム作り体験、販売もする。

メガネは 13 世紀、イタリアで造られた。その後、印刷機発明での活字文化普及で需要が増加。フランシスコ・ザビエルは近視眼鏡で織田信長に謁見したという。

110 年前、大阪でめがね修業をした村民が技術を持ち帰り、農閑期の副業として始まった。地元には越前漆器、刃物、和紙、陶器などを北前船で北海道から島根県まで広げてきた技術と伝統がある。それがめがねフレームにも活かされて進化。デザイン、金型、プレス、研磨～など 10 近い作業に分業化され、まち全体がめがね工場のようになっているそうだ。1982 年にチタンフレームを

開発、鉄より軽くて錆びない人気製品として需要が拡大した。現在も、人口の 1 割がめがね産業に従事。半数は女性で、その社会進出は SDGs の面からも評価されている。近年は、安価な中国製などの影響でピーク時の出荷額 1200 億円から減少しているが、主要産業であり「技術と品質」で巻き返したいという。新たな目標は伝統と、自然や風土から育まれたモノづくりの歴史の循環を取り戻し「MADE IN JAPAN」として未来を見据えるという。

質疑応答の内容

Q. めがね産業発展の理由は。関連企業は何社ですか。

A. 越前漆器や和紙など伝統的産業が、高度な技術を持つ職人を育てました。

分業のため、約 200 社。500 人が従事しています。

Q. ふるさと納税の返礼品にも使われていますか。

A. ふるさと納税額は約 3 億円。めがねフレームやサングラス、関連アクセサリーが人気です。



めがねミュージアムでの研修

江戸時代のめがね

ホテルの陳列 PR

【所感・羽村市にどう活かせるか】

羽村市は大企業の撤退等で、法人税収入が激減。一方で DX や IT 関連、試作品製造などの新たな産業や、恐竜制作のようなユニークな産業が生まれている。

首都圏自治体としての優位性、地域の伝統産業を発掘し、活かす方法を考えていきたい。